

幼児教育研究部 第2回研修会 主任班

講演会

講師 静岡県立大学短期大学部 永倉 みゆき 氏

演題 今、子どもたちに育みたい資質・能力



～幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を捉えた遊びの中にある資質・能力とは～

・幼稚園教育で育みたいこと

- ・現在、幼・保・小・中・高を通して「資質・能力をつなげる教育」を目指している。
- ・「幼稚園教育において育みたい資質・能力」や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」は、新しい視点や目標ではなく、今までずっと幼稚園の生活の中で保育者が子どもに願い、育んできたことである。

◎教師は、常識に捉われず、思いがけない子どもの行動の中に、幼児期にふさわしい生活の中にある10の姿の芽を見いだし伸ばす専門家であってほしい。

・「幼児期にふさわしい生活」のために

- ・遊びを学びの始まりと捉えて保育する。
- ・幼児の表面的な言動ではなく、その言葉や行動の意味を読み取る必要がある。
- ・遊びの中で、その子らしさが見えてくる。活動の中で何を学んでいるか、何を獲得したのかを見いだししていくことが大切である。

～運動会を題材にしたVTR視聴による実践事例より～

- ・幼児が行事に期待感をもち、主体的に取り組んで、喜びや感動、さらには達成感を味わうことができるように配慮することが必要である。
- ・行事や活動そのものを目的化するのではなく、幼児の発達の過程や生活の流れから見て適切なものに精選することが大切である。

・あるべき姿に縛られず「何を育てるか」の原点から考える

- ・幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なもの
→今の目に見える成果に縛られず、目に見えない力を育てることが大切である。
- ・子どもの今を原点に考えるために必要なこと
＝「記録をする→記録をもとに子どもを理解する→子ども理解を元に立案する」

・園のリーダーである主任として

- ・リーダーは「子どもに何を育てたいか」（自分として、園の理念として）を、核としてもつ必要がある。
- ・多様性がある社会から発生する多くのノイズ（摩擦：現状を変えたい気持ち）を大切にすることで、新しい発見が生まれる可能性が高まる。（上野千鶴子の言葉）
- ・「わかる」ことは「変わる」こと。変わることの不安定さの先に新しい世界がある。リーダー自身も現在の園のあり方にノイズを発生させる存在となってほしい。

○講話を受けて（自己課題や方策、自園への取り入れ方について）

- ・日々の保育、行事の捉え方を考え直す機会になった。行事や活動が目的になるのではなく、それを通して「何を経験させたいか」「何を育てたいか」を念頭に置いて保育したい。また、園内で今一度、「何を育てるのか」の原点に戻り、考え合う場を大切にしていきたい。
- ・教師の意図と子どもの姿がずれていく時に、教師の意図に近づけたいと思うことが多かったと反省した。遊びの中での子どもの学びを読み取ることを大切にしていこうと思う。
- ・子どもの言葉や行動の一つ一つの意味や意図を理解し、表面的な捉えではなく、内面的な捉えができるように努めていきたい。また、園内研修などで職員と語り合い、どのような資質・能力が育まれているのかを多面的に捉えられるようになりたい。
- ・今までの保育の流れや考え方に捉われず、自分自身もノイズを発信したり、いろいろな人のノイズを生かしたりして、新しいことにも挑戦する姿勢をもちたいと思う。